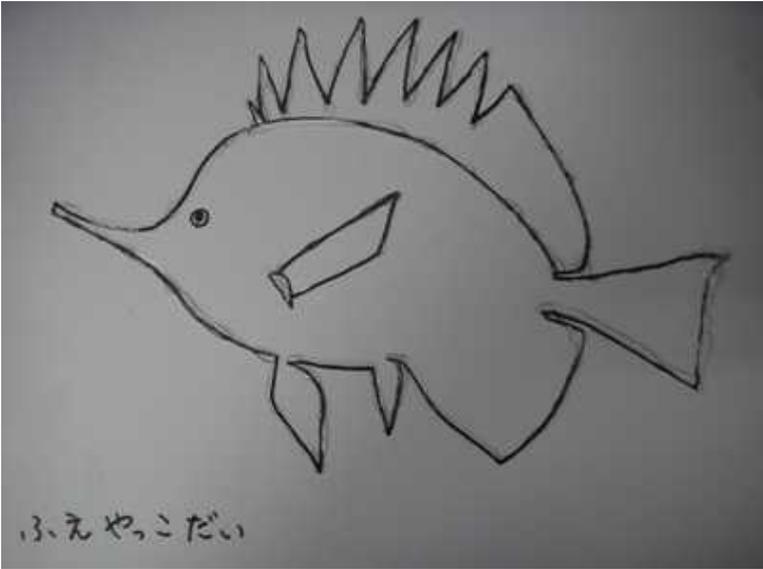


教材事例書式

教材教具名 描画指導用 図案	教科(美術)	
<p>教材教具写真</p> 		
<p>教材教具の概略(ねらいと使い方) 発達段階や教科上のどの課題で、どのように使ったか等</p>		
<p>1 ねらい 輪郭線への意識を高めるとともに、彩色場所、範囲等へ意識を高める。</p> <p>2 発達段階 スクリブルの段階からファンファーレ程度まで。</p> <p>3 使い方 画用紙に図案を描き、輪郭線に沿って、透明または、有色のグルーガンで縁取る。</p> <p>図案内容や、見たものの内容は理解できるが、描線を引き続ける筆圧が低い等の生徒には有効。自分のイメージと、自分が描ける形にギャップがあり、自分の描くものが好きになれないタイプの児童・生徒への教材としても有効。</p> <p>彩色についても、図案自体が凹凸で区切られているので、はみ出さない事への指導(自立学習的になりがち)に指導者が神経を使う必要が少なくなり、彩色、混色等、造形的なねらいに迫りやすく、生徒の苦手意識の軽減策となる。</p>		
<p>児童生徒の反応や教材の評価 使ってみての感想・改良発展のアイデア等(次に利用する方のために)</p>		
<p>グルーガンの凸凹を頼りに、一人でも輪郭を何度も自動的になぞれる事で、色が着くため、描くこと自体への満足感が高まる。</p> <p>版としても使える。</p> <p>彩色しても、自分がどの部分に対して、何をしているか意識が途切れにくい。</p> <p>彩色道具を持つ=塗りつぶしの生徒には不向き。</p>		